

コミュニティ・スクールだより

第3回学校運営協議会

11月16日（土）に、第3回学校運営協議会が開催されました。今回は、十小教職員全員が参加して行われました。協議会の中心である熟議では、活発な意見が交わされ、充実した協議会になりました。

以下、その概略について記述します。

1 全体会

(1) 経緯説明

全体会の冒頭、小林学校運営協議会会長より十小教職員に向けて、第1回・第2回学校運営協議会で話し合われた内容の説明がありました。

学校運営協議会の趣旨説明とともに、今後の活動実施に向けての経緯等の説明があり、参加した教職員は、学校運営協議会の活動の実態をより正確に理解することができました。

(2) 協議内容の精選

第2回学校運営協議会で出された幾つかの活動案から、今回協議する内容の絞り込みを行いました。その際、「具体的な活動を決定・実施する上で、十小の子どもたちの様子や実態を知る必要がある。その意味で、今回十小の教職員に参加してもらったことは意義がある。そして、子どもの実態とともに、学校の環境や地域の様子も確認していかなければならない。」という意見も出されました。

今回の協議（熟議）する活動内容は、以下の通りになりました。

「放課後学習支援活動」 「読み聞かせ活動の拡充」 「学校周りの花壇及び中庭の芝生整備活動」 「学校及び地域連携の災害避難訓練」 「市民一斉清掃の参加及び地域の方との合同あいさつ運動」 「地域の方と作物栽培」 「朝ご飯食堂」 「地域の歴史を伝え合う」

2 グループ協議

上記の項目毎に、1グループ4人～5人のメンバーによる8グループ編成を行いました。

(1) 熟議

グループのメンバーは、学校運営協議会委員が1名、十小教職員が3～4名の構成になりました。話し合った項目は、以下の通りです。

ねらい
対象児童
活動内容
実施する曜日・時間・活動場所・活動期間
必要とするボランティアの方々
人材確保（該当ボランティアの募集方法）
活動開始までの手順
必要物品（予算面）
活動の周知方法
予想される成果
予想される課題



【熱心な協議の様子】

熟議では、熱心な協議が行われました。話し合われた主な内容は裏面の通りです。

1班 放課後学習支援活動

授業内容の補充学習ができ、学習内容の定着が期待できる。また、子どもたちの学習習慣づくりにも役立ち、学力の向上にもつながることになる。

予想される課題としては、高学年の放課後の学習時間をつくり出すことが難しいこと。また、補充学習後の下校も安全面上、配慮していく必要がある。

2班 読み聞かせ活動の拡充

落ち着いた雰囲気ですぐに1日のスタートができるとともに、話を聞く姿勢ができるので、授業の取組もよくなる。また、自分の興味と違う本も読んでもらえることで、読書の幅が広がることになる。話を聞く姿勢をつくることにもつながる。課題としては、読み聞かせをしてくださるメンバーが不足している。4年生以上の学級に入っていただく方がいない。

3班 花壇及び中庭の芝生整備活動

学校の花壇をより充実することで、子どもたちの学習環境をよりよくするとともに、花を育てることで命を尊重する心も育成できる。中庭の芝生を整備することでは、芝生を利用した教育活動が増え、休み時間などに異学年同士の交流が盛んになる。

課題としては、育成、管理、手入れを継続的にしていく必要がある。

4班 学校と地域連携の災害避難訓練

普段は体験できない「煙体験」、「地震体験」、「AEDの使い方」「炊き出し訓練」などを知ることができ、災害時に役立てられる。また、消防署や公民館などと連携ができるようになり、共同体制を作ることができる。

予想される課題としては、参加団体や参加者の募集の仕方や開催時期、災害避難訓練の内容などを練る必要がある。

5班 市民一斉清掃の参加及び地域の方との合同あいさつ運動

地域の清掃活動に参加することで、奉仕の心や美化意識の育成につながり、子どもたちに地域の一員であるという意識ができる。あいさつ運動では、地域の方とのつながりやコミュニケーションができる。

予想される課題は、実際の活動の仕方や参加者の募集の仕方を考えていく必要がある。

6班 地域の方と作物栽培

期待される成果として、地域の方との交流ができるとともに、作物への興味・関心が増えることで、食べ物への感謝の気持ちが芽生え、食べ残しが減って行くのではないかな。

予想される課題としては、作物を育てる場所、土地を借用することやボランティアの方を探すこと。農家の方の専門的な支援要請も必要である。

7班 朝ご飯食堂

期待される成果としては、地域の方とのふれあいができ、子どもの健やかな成長につながることになる。また、夏休みに地域の方と「昼食づくり」をしてもいいのではないかな。

予想される課題としては、ボランティアを集めることや、食材を集めること。また、風評被害的な面も配慮が必要では。公民館と協力してのシステム作りが必要である。

8班 地域の歴史を伝え合う

期待される成果は、地域のことや先人の業績を知ること、子どもたちが地域に愛着をもつようになり、自分の地域に誇りをもてるようになると思われる。

予想される課題としては、地域を調べる上でのフィールドワークが広すぎる。また、地域の歴史を伝承するボランティアをどう募集すればよいか。

まとめとして、学校運営協議会委員の方から次のような意見が出ました。「熟議で話し合われたそれらの活動が十小の子どもたちにとって本当に有益であるかどうか、また併せて、十小教職員の負担増にならないようにしていく必要があります、活動を始める上で十小教職員の意見も継続して聞いていくことが大事に思う。」左記の意見等も配慮し今後の活動について考えていく必要があります。

今回の熟議で話し合われた内容について、地域の皆様からもご意見やご助言をいただけると幸いです。ぜひ、担当（田野入又は教頭）までお寄せください。【74-8733 十小】